



イベント情報

2/5 いなかとまちのくるま座ミーティング 『いなかとまちのミライを語ろう』

新型コロナ禍の中でもちゃんと四季は訪れ、農村部では自然と共に日々を送っています。とはいえ、時代は大きな変化の時を迎えています。それぞれの想いを語り合う場として、今年度も「くるま座ミーティング」を開催いたします。テーマは、「いなかとまちのミライを語ろう」です。ぜひご参加ください。

●日時 2022年2月5日(土)

●スケジュール

13:00 開会あいさつ

13:10 第1部

ミニ講演会『くたびれつつある日本を山村から再生する』
たかのまさお 高野雅夫氏(名古屋大学大学院環境学専攻教授)

14:15 第2部 豊田市山村地域の活動者リレー紹介

14:55 第3部 くるま座談義

いなばひさゆき 会場ファシリテーター 稲葉久之

16:20 閉会あいさつ

16:30 終了・・・希望者はアフタートーク


●参加方法

①会場参加 場所:足助支所2階会議室 定員:50名

②オンライン参加 定員:500名

●参加費 無料

●申込方法

専用申込フォーム  または、FAX(0565-62-0614)、

電話(0565-62-0610 受付時間は平日8:30~17:00)に

①お名前②お住まい③連絡先(携帯電話・メールアドレス)

④所属先(あれば)⑤興味のある分野(暮らし・働き方・つなぐ・子育て・その他)⑥参加方法(会場またはオンライン)をご連絡ください。

●申込期間 1月5日(火)9:00~2月3日(木)17:00

●その他 オンラインで視聴するには、パソコン・スマホなどのインターネットに接続できる環境が必要です。インターネットの接続費用は参加者のご負担となりますのでご了承ください。オンラインで申込された方へは、収録動画のリンクを後日お知らせします。新型コロナウイルスの感染拡大状況によりオンラインのみの開催になる場合があります。

●主催・問い合わせ

おいでん・さんそんセンター 担当:小黒
豊田市足助町宮ノ後26-2(足助支所2階)

sanson-center@city.toyota.aichi.jp

0565-62-0610(平日8:30~17:00)

1/29 炭焼き体験会! 森のめぐみで心も体も暖まろう!

炭を使って暖をとったり料理したりするのは、現代では不便な方法かもしれませんが、火があると人が自然と集まって会話が生まれ、楽しいものです。

今回は、窯の中に入っている炭を一旦出してから、次に焼く原木を並べ、窯に火を入れる作業を体験します。斧を使っての薪割りにチャレンジします。お昼は、地元産の幻の米「ミネアサヒ」で作った五平餅をいただきます。健康的な里山の暮らしのあり方や、伝統的な炭焼き技術をみんなで一緒に楽しく学びましょう!

●日時 2022年1月29日(土) ※荒天中止

●スケジュール

9:30 羽布集会所(豊田市羽布町仲之切58)

10:00 作業体験

12:00 昼食

13:30 解散

●場所 豊田市羽布町川合 森若蛙の会炭窯

●内容 炭の窯出し、割り木の窯入れの作業体験

●対象者 森が好きの人、農的暮らしを目指している人

●参加費 2,000円/人[保険代、昼食代(五平餅)、炭代として]

●定員 10~20人(先着順)

●持ち物 汚れても絶対に後悔しない服装、軍手、マスク、ゴーグル、長靴、持ち帰る炭用の袋

●注意点 新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、内容が変更または中止になることがあります。また、感染対策に注意して実施しますが、参加される方においても対策にご協力をお願いします。

●申込方法 ※締切は1月20日(木)

専用申込フォーム 

または、下記宛先に

①お名前・参加人数②お住まい③連絡先(携帯電話・メールアドレス)をご連絡ください

おいでん・さんそんセンター 担当:坂部
豊田市足助町宮ノ後26-2(足助支所2階)

sanson-center@city.toyota.aichi.jp
0565-62-0610(平日8:30~17:00)

●主催 羽布まちづくり委員会・景観チーム

●協力 羽布自治区、森若蛙の会、豊田市下山支所

詳しい情報、他のイベント情報は
おいでん・さんそんセンターホームページ
『イベント情報』をチェック!

PICK UP

道慈自治区千洗町で「空き家片付け大作戦」

小原
おばら

総勢70名が力を合わせ5トンの荷物を3時間で搬出



12月12日(日)小原地区千洗町にて「空き家片付け大作戦」が開催されました。今回のイベントは、道慈自治区・小原地区定住推進委員会が主体となって企画し、おいでん・さんそんセンターは自治区よりご依頼を受け、ボランティアの募集とチラシ作成などの告知、当日のサポートを担当しました。

小原支所から車を5分程走らせた山間に道慈自治区千洗町があります。道慈自治区は100世帯260人、そのうち千洗町には15世帯43人が暮らしています。高齢化率は小原全体41%に対し千洗町44%です。道慈自治区での空き家片付けは今回が初めて。人口減少、高齢化が進む地域の未来を明るくしようと移住者や関係人口の拡大に取り組んでいる地域の一つです。

老朽化の進んだ空き家を70名で片付け

今回の片付け物件には母屋、蔵、古い納屋、農機具小屋の建物がありました。7年前から空き家となっていた今回の物件は、老朽化が進んでおり、雨漏りにより一部の柱が

腐り、床は抜け、階段は破損していました。家主さんも事前に片付けをしていましたが、大量の荷物があり、撤去には、多くの人手を必要とする物件でした。

今回の参加者は、道慈自治区千洗町の住民、他地区から駆け付けて下さった「おばらまちづくり応援隊」、中京大学準硬式野球部1年生20名、小原支所、おいでん・さんそんセンタースタッフの総勢70名の大部隊となりました。

9時から開始して3時間。昼までにすべての荷物が運び出され、あっという間に荷物の山が庭に積み上げられました。家具やふとん、タオルや衣類、思い出深いアルバムや手紙、昔のおひなさまなど、山になった荷物を『燃やすゴ



ミ』、『金属』、『埋めるゴミ』に分別し、次々と袋に詰め込んでいきました。

多くの方の手で作業は順調に進み、予定より早く荷物は片付きました。お昼休憩の昼食は、味ご飯、地域の方が手作りの温かい豚汁などご用意くださり、参加者一同で頂きました。その後、搬出など全ての作業が終わったのが15時でした。

物が溢れ、時が止まっていた家は、物がなくなりすっきりとして、外からの光が入り、静かに次の家主を待っているようでした。こちらの家は既に新しい家主の方が入居する予定です。現在の家主さんは「みなさんのご協力のおかげで短時間で荷物を撤去する事ができました」と喜んでいました。

学生ボランティアが大活躍

今回、センターのコーディネートで参加された中京大学準硬式野球部のみなさんが大活躍していました。

庭から梯子を掛け、1階部分の屋根に登り、2階の窓から出したたくさんの荷物を下ろしたり、畳などの重い荷物を運んだりしてくれました。地域の方は「若い人がいるだけで元気がもらえる」と話していました。

学生の方のアンケートには「地域住民の方からたくさんの感謝の言葉をいただき、やりがいを感じることができました」、「今後も様々なボランティア活動に積極的に取り組んでいきたいです」と書かれていました。今回の活動が次へのボランティア活動の意欲につながっていることに胸が熱

くなりました。学生のみなさんありがとうございました。若い力が地域には必要だと感じました。

物との付き合い方に思いをはせる

私は、今回はじめて空き家片付けに参加させていただきました。古いものが好きな私にとって古民家は宝の山に見えました。黒塗りの碗や、お膳、葛籠、糸巻や古い農機具、古道具などたくさん出てきました。昔の暮らしの道具がそのまま残っていて、見たことのない珍しい物の数々に心奪われました。一瞬、時代をタイムスリップしたように感じました。昔の人は自給自足で食べる物、着る物全てを、自分たちの力で作り出していた時代に思いを馳せました。

私自身も田舎で古い家に住んでいます。今回空き家片付けに参加して物の溢れた我が家の事を反省しました。今回を機に大掃除をしようと思います。家を片付け、安易に物を買わない、しまい込まない、物を少なくして大切に使う、そんな暮らしを目指していきたいと思いました。

センターは、「空き家バンク」に登録済み、または登録の予定のある空き家の家財道具を片付けて、新しい住民を迎え入れたいという自治体を今後サポートしていきます。他の地域でも依頼があれば全力でお手伝いを致します。ご希望がある場合は、ぜひおいでん・さんそんセンターまでご相談ください。

一つでも多くのあかりが空き家に灯りますように。

(本多さおり)



中京大学準公式野球部1年生の皆さんが大活躍



昔の暮らしが忍ばれる道具の数々



地元の方がお昼ご飯を準備してくれました



金属ゴミが搬出されるのを見送る

■豊田市には「空き家片付けの補助金制度」があります■

建物が大きく、物置や押し入れの多い田舎の家には想像以上に物が残っています。片付けの量が多ければ多いほど処分費用は大きくなります。今回の家主さんもこちらの制度を利用して片付けをされました。空き家を片付けされる方は利用されるとよい制度です。

【空き家情報バンク登録促進事業補助金】

(空き家の片付けに対する補助)

対象は、空き家情報バンク登録物件またはバンク登録を予定している物件。申請者は、空き家の所有者で上限額20万円(補助率8/10以内)補助されます。

《問い合わせ先》

地域支援課 Tel 0565-34-6629

report

ワーカーズコープ・センター事業団理事長 田中羊子氏をお招きした

誰もがいきいきとお互いの力を生かし働く「協同労働」勉強会

2020年12月4日、第203回臨時国会において「労働者協同組合法」が制定されたことをご存知でしょうか。「協同労働」を法的に担保し、疲弊する地域経済、貧困の増大、社会的排除と孤立などの課題にアプローチする可能性が注目されています。

12月22日(水)、おいでん・さんそんセンターで定期的開催されるプラットフォーム会議で、この法律と協同労働という働き方についての勉強会を行いました。プラットフォームメンバーのひとりである丹羽健司さん(矢作川水系森林ボランティア協議会)のつながりで、田中羊子さん(ワーカーズコープ・センター事業団理事長)をお招きしお話を伺いました。

「協同労働とは、働く人が出資をして組合員となり、それぞれの意見を反映させながら主体的に運営し、地域の多様な課題を解決しながら、持続可能な地域社会づくりに向けて事業

を行う働き方です。これまで『働く』と言えば、雇用されることがイメージされていたと思います。協同労働では、事業方針をみんなで行うこと、よい仕事と地域づくりをする当事者意識を高めるこ

とになります」と田中さん。

ワーカーズコープ(協同組合)の歴史は1970年代から始まり、現在では就労者1万6,000人、事業規模は年間350億円(2019年度)。清掃、地域福祉、農業、林業、食、環境など生活と地域を担う分野で仕事づくりを推進しているそうです。

田中さんは協同組合に入って35年、「人は孤立しては力を出せない。違いや弱さを認め合って、お互いに生かしあう。こうしたことに真正面から格闘している協同組合に惹かれ続けてきました」と語ってくれました。

田中さんの説明を聞いたプラットフォームメンバーからは、「法律ができることでどのようなメリットが得られるようになるのか」、「介護予防をやっている事業体はあるか」といった質問や、「これから実現させようとしている地域の支え合いシステムを協同組合でやりたい」という感想がありました。

労働者協同組合法は、2022年10月1日から施行される予定です。今回の勉強会を機会に「誰もが地域のために自分らしく主体的に働ける」協同労働という働き方について、事例などを調べてみようと感じました。(木浦幸加)

